

## 平成19年度第2回山梨県後期高齢者医療懇話会議事録

日 時	平成20年1月30日（水）午後2時から午後4時00分
場 所	山梨県自治会館 2階 研修室3
出席者	被保険者を代表する委員 志村友男（老人クラブ）・天野辰男（老人クラブ） 田辺好子（老人クラブ） 医療関係団体を代表する委員 黒澤駿光（医師会）・花形哲夫（歯科医師会） 学識経験者その他の有識者を代表する委員 神戸義久（社会福祉協議会） 医療保険者等を代表する委員 赤岩三郎（健保組合連合会）・矢崎幸雄（国保連合会） 広域連合 小林広域連合長・嶋口事務局長・望月事務局次長・原業務課長 真田企画財政担当リーダー・樋口給付資格管理担当リーダー 由井・早川
欠席者	被保険者を代表する委員 水上秀克（老人クラブ） 学識経験者その他の有識者を代表する委員 杉田雄二（福祉保健部） 医療保険者等を代表する委員 小原正（社保庁）
傍聴人	なし
報道関係者	山梨放送・テレビ山梨・山梨日日新聞・朝日新聞
懇話事項	保健事業について 広報活動について

## 意見

～保健事業～

- 対象者により理解していただけるよう、保健事業の指導内容の項目の中に口腔機能についての文言を加えてほしい。
- 口腔機能について歯科衛生士との格差があるのが現状である。市町村の保健師に口腔機能向上のための研修を取り入れていただきたい。
- フォーラムを開催する場合県内1ヶ所で行うのは、様々な問題により不可能である。各市町村へ補助金を出し、行うのはどうか。
- 事業を行う場合、保健師が1人では不可能ではないか。
- フォーラム等を行う場合、様々な区分にわけ、個々に対応した指導を行わなければならない。

- 保健師だけでなく、医師も手伝いができることは協力をする。
- 重複・頻回受診の抑制にウエイトをおかず、被保険者マイナス志向にならないような指導を行うべきである。
- 病気になってから指導を行っても医療費削減にはつながらないので、元気な人を元気なまままでいてもらうようにする広報が大切。
- 元気であるためには健康診断を受けることが大切であるので、健康診断を受けていただくPR等をする必要がある。
- 制度についての周知はいいと思うが、医療の内容についてのことが広報できていない。(決まっていない)
- 医療の内容について被保険者は不安を感じているので、主治医制度等について広報すべきである。
- 健康診断を行うにあたり、年齢等で分けをし安心して健康診断を受けられるようになれば、大勢の方が受診するのではないか。